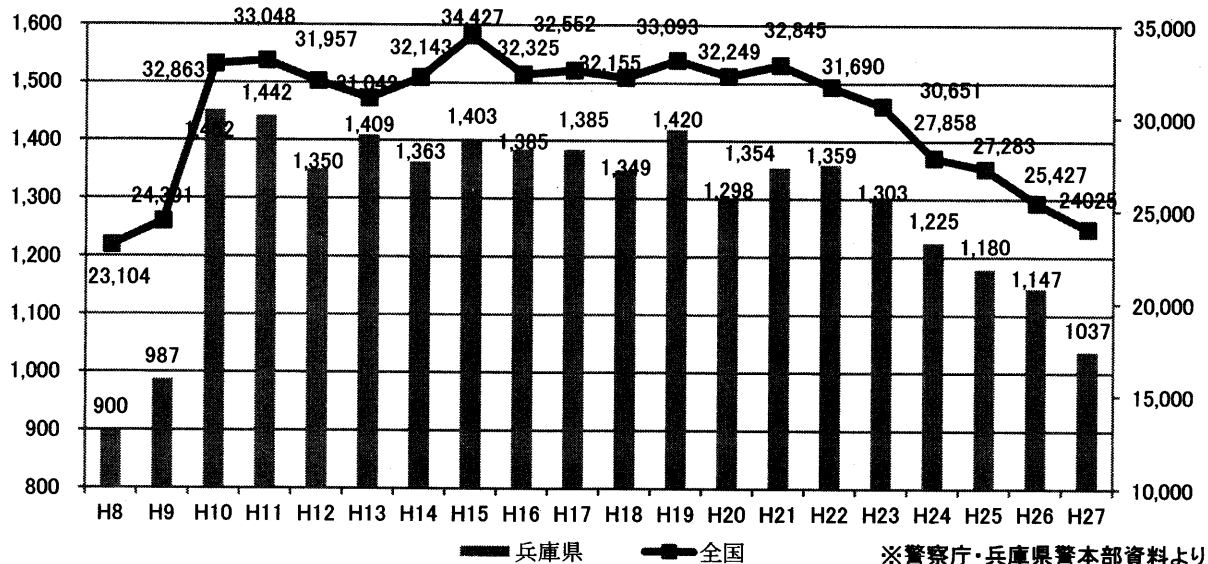


# 兵庫県における自殺者の状況

## ①平成 27 年の自殺者数

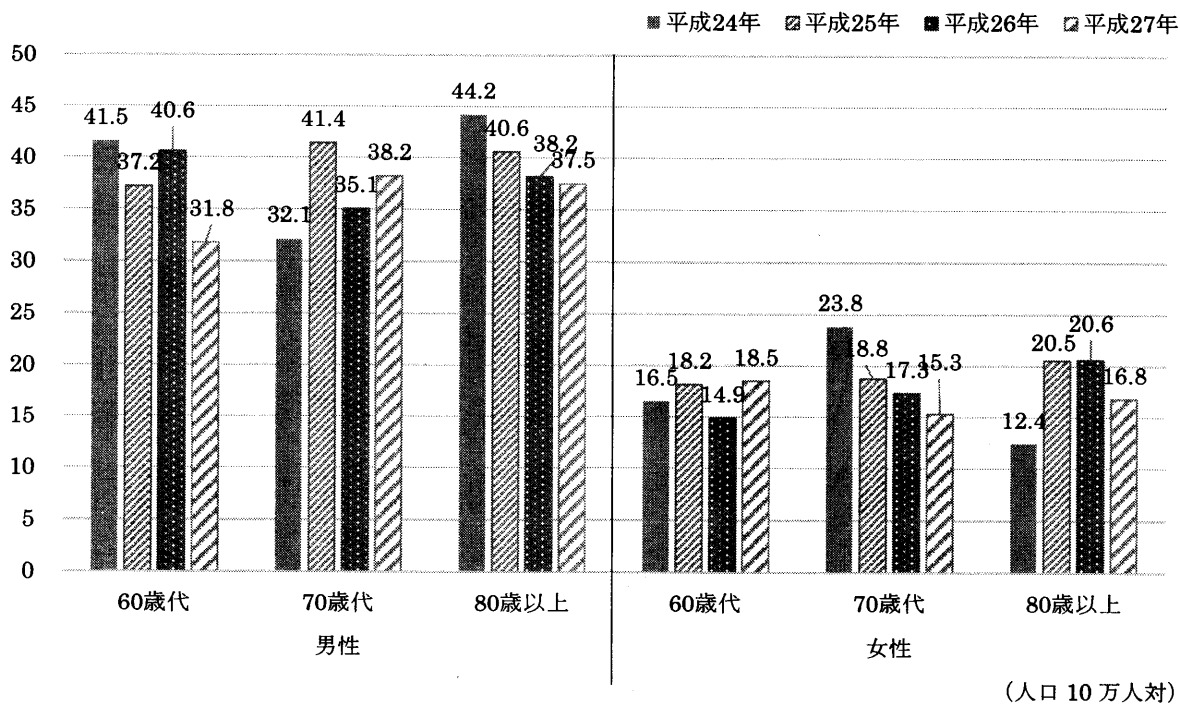
平成 27 年の自殺者数は、全国で 24,025 人、兵庫県で 1,037 人。

平成 10 年に急増して以降、18 年間で最も少なく、平成 22 年から 5 年連続減少しており、県内では前年 1,037 人から 110 人減少した。



## ②高齢者（60歳以上）の自殺率

男性では 70 歳代、女性では 60 歳代が増えている状況であり、高齢者の自殺の深刻な状況は続いている。

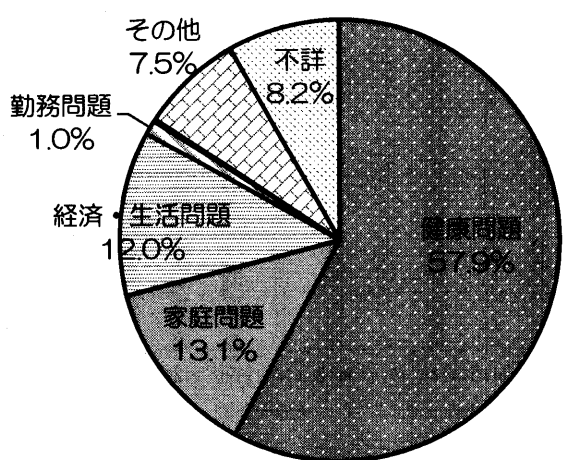


### ③高齢者の自殺の特徴

- 自殺者の約4割は高齢者
- 「死にたい」と考えたことのある高齢の介護者は3人に1人
- 高齢者の自殺未遂や自殺は「うつ病」が大きな原因
- 自殺の前兆により内科医等は受診するが精神科医は未受診
- 自殺者の多くが家族と同居 (厚生労働省のホームページより)

### ④高齢者層の自殺原因と動機

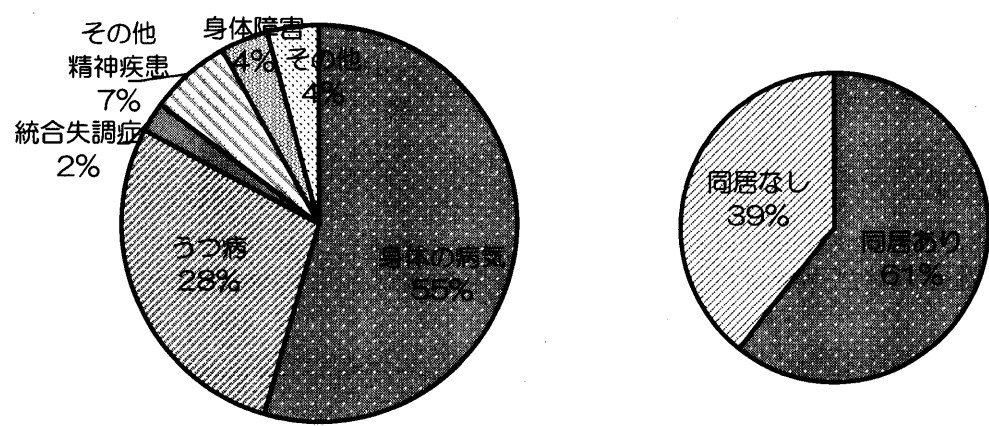
健康問題が57.9%と最も多い。次いで、家庭問題、経済・生活問題の順。自殺者全体(46.8%)と比べると、健康問題の占める割合が高くなっている。



### ⑤健康問題の内訳

身体の病気が55%を占めており、うつ病等の精神疾患は37%となっている。また、健康問題を抱える高齢者のうち、同居世帯が61%、独居世帯が39%。

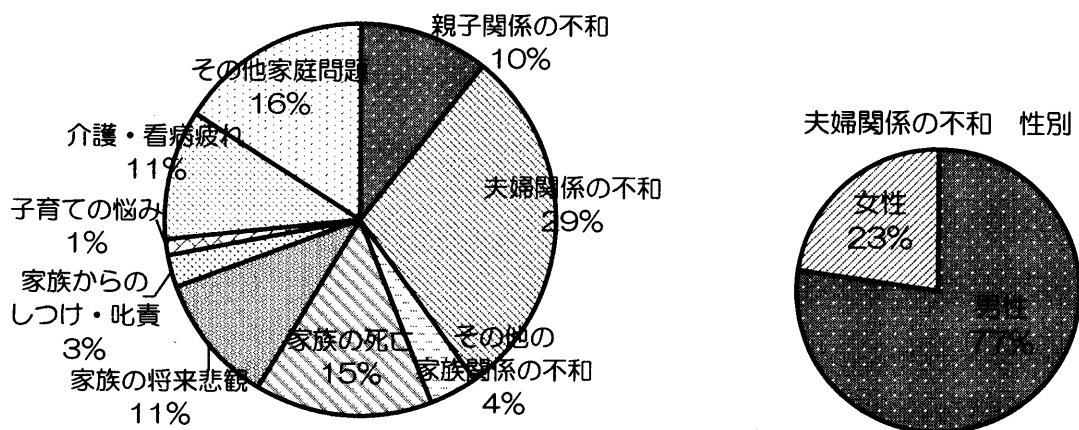
- 高齢者の多くは自分の健康状態について悪い評価をしがち。病気を大きなストレスに感じ、「楽になりたい」「元の体に戻らないなら死んだ方がましだ」といった言動が目立つ。
- 継続的な身体的苦痛がうつ病の引き金となり自殺につながると考えられる。
- 健康の減退、間隔喪失、認知機能の低下、行動力の低下などは慢性的なストレスとなり、うつ病になりやすいと言える。 (厚生労働省のホームページより)



### ⑥家庭問題の内訳

夫婦関係の不和が29%と最も多い。(うち男性77%、女性13%)  
 次いで、家族の死亡(15%)、家族の将来悲観(11%)、介護・看病疲れ(11%)。

○心身両面の衰えを自覚し、同居する家族に看護や介護の負担をかけることへの負担を感じる。  
 ○近親者の病気や死など、強い喪失感から閉じこもりがちとなり、孤独・孤立状態からうつに至ると考えられる。  
 ○家族や友人とのいさかい、住み慣れた家を離れるなど重大なライフイベント、社会的役割の低下、家族の介護、社会的孤立などの慢性的なストレスがある。  
 (厚生労働省のホームページより)



【参考】 NPO 法人ライフリンク 自殺白書より

